大阪大学バンコク教育研究センターの活動

日本学生支援機構タイ事務所
JASSO Japan Educational Information Center, Bangkok

はじめに

文部科学省における平成24年度「大学の世界展開力強化事業」においては、「ASEAN諸国等との大学間交流形成支援」が対象事業とされており、平成24年9月に決定された採択事業14事業中、実に13事業において相手側大学としてタイの大学が含まれている。また、2013年は「日・ASEAN友好協力40周年」であるとともに、タイではタイ国日本人会が創立100周年を迎えるなど節目を迎える中、ASEAN中心国の一つとされているタイとの日本との教育交流については、今後ますますその重要性を増すものと考えられる。

文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室の「大学における教育内容等の改革状況調査（平成21年度実績）」によると、平成21年10月1日現在、タイには20を超える日本の大学の海外拠点があるとされている（注）。加えて、2012年4月には関西大学、7月には立命館アジア太平洋大学、11月には国立高等専門学校機構がバンコクに現地事務所を構えるなど、タイにおける大学等の現地事務所設置の動きは活発化している。

これらタイにおける大学の現地事務所のうち、この度、日本学生支援機構（以下、JASSO）タイ事務所に近接する大阪大学バンコク教育研究センター 関 達治 特任教授・センター長を訪ね、その活動について取材させていただいた。本稿ではこの取材内容等を踏まえ、タイにおける大学の現地事務所の活動事例として、同センターの活動についてご紹介することとしたい（取材者：JASSO タイ事務所 山本 剛、カンピロム・ヨードウォン）。

大阪大学バンコク教育研究センターの概要

大阪大学バンコク教育研究センターは、同大学の第3番目の海外拠点センターとして、サンフランシスコ（米国）、グローニンゲン（オランダ）に続いて2007年に設置された。現在は上海に第4番目のセンターが設置されている。JASSOや大阪大学が事務所を置くビル（Serm-mit Tower）はツインタワー構造となっているが、大阪大学はこのうち低層棟の10階に事務所を構えており、JASSOは高層棟の10階に事務所を設置しているため、連絡通路で往来は容易である。そのため、時にはJASSOタイ事務所に留学相談に来た学生を、大阪大学事務所に案内することもある。なお、同じ低層棟の10階には、立命館アジア太平洋大学が事務所を設置しており、現地職員を置いている。

事務所は、センター長の関 達治 特任教授及び現地職員のパチャラポン・ティナワンさん（ニックネーム：ヌーンさん）の2人の職員で運営している。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

関特任教授のご専門は微生物学。2007年3月に大阪大学（生物工学国際交流センター長）を定年退職後、直ちに特任教授・センター長として赴任され現在に至っている。大阪大学在職中には、東南アジアからの留学生・研修生の教育や、東南アジアの微生物学やバイオテクノロジー研究者との学術交流に参加し、広い人脈をお持ちであり、特に、ユネスコ微生物学／バイオテクノロジー国際大学院研修講座や、日本学術振興会の拠点大学方式によるバイオテクノロジー分野に関する学術交流に30年以上にわたってかかわってこられ、タイとの協力は重点的に進められてきた。これらの業績に対して、2009年3月にはタイ国立マヒドン大学から名誉博士号（理学）が授与されている。現在、マヒドン大学理学部の客員教授として、講義の一部を分担されている。

関センター長は、日本の大学関係者及び日本人小中学校等を含む在タイの文教関係者とも親交が深く、その見識は日本の教育関係事業にとっても有意義であることが多いようで、事務所への教育関係者の訪問は絶えないようだ。

また、ヌーンさんは国立ブラパー大学を卒業、専門は幼児教育で大学卒業後に国際交流基金の日本語講座にて日本語学習に励んだとのことである。英語と日本語の両方に堪能なヌーンさんは関先生の片腕として通訳、翻訳、ロジ作業等を幅広くこなす貴重な存在であるという。なお、2011年9月までは、副センター長として日本人派遣職員のポストがあったものの現在は空席となっているとのことである。

事務所入口には大阪大学の旗が掲げられ、その扉をノックするとヌーンさんが迎えてくれた。面積凡そ40㎡の部屋は応接スペース及び執務スペースに分けられており、大阪大学のパンフレットや留学関係資料が並べられていた。執務スペースには和文、英文の研究書籍や資料等が書棚に収まっており、さながら大学の教授の研究室を訪問したようであった。事務所内には、TV会議システムも設置されており、来訪者には必要に応じて使用してもらうように伝えているという。

同センターの主な活動内容としては、①タイから大阪大学へ留学を希望する者への対応や大阪大学の学生のタイへの派遣に関する対応など教育に関する支援、②大阪大学部局とタイの学術交流協定締結大学、国立科学技術開発機構の研究所との共同研究に関するスタートアップ支援、ならびにタイに設置している大阪大学研究施設に対する支援、③在タイ邦人に対する講演会の開催などの社会活動に関する支援、④タイ人卒業生を中心とした同窓会への事務所の提供があり、その割合は概ね①が4割、他がそれぞれ2割程度という。

大阪大学バンコク研究連絡センター

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

留学生獲得のための活動

大阪大学のタイにおける留学生獲得のための活動としては、JASSO が主催する日本留学フェアには例年出展しており、今年度は 2012 年 9 月 16 日（日）に開催した日本留学フェア（バンコク、来場者数 1,699 名）に出展するとともに、同会場で開催された国際化拠点整備事業（グローバル 30）採択大学による日本留学説明会（タイ）にも参加した。加えて、在タイ日本国大使館により、例年開催される地方留学説明会にも参加している。今年度は、2012 年 12 月 17 日（月）・18 日（火）に実施された、北部ペッチャブーン・ラージャパット大学（ペッチャブーン県、来場者数 331 名）及びナレースワン大学（ピサヌローク県、来場者数 218 名）に参加し、タイ語による大学紹介の DVD 上映とともに、大学の学部・研究科紹介や、学費、奨学金制度等についての説明を、来場した高校生及び大学生に対して実施。関センター長の、参加者に語りかけるようなあたたかい関西弁の説明を、ヌーンさんが丁寧にタイ語訳する姿が印象的であったが、この中で関センター長が繰り返し強調された自然科学における基礎研究の重要性については、タイの学生だけでなく、参加した日本側関係者、そしてタイの大学関係者へも訴えかけているように感じられた。また、特に大阪大学大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻が中心となって実施しているアジア人材育成コースについては、修士号取得後に日本の企業に勤めることが必須であるなどが説明され、多くの高校生、大学生が興味を持って耳を傾けていた。

ナレースワン大学説明会（関センター長、ヌーンさん）

さらに、JASSO が 11 月に開催した日本留学フェア（ベトナム）へも、ハノイ、ホーチミンともに関センター長が出張して参加。併せて、同時期にダナンにて実施された京都大学－ベトナム国家大学ハノイ共同事務所による日本留学説明会へも参加するなど、バンコクに事務所を持つという地の利を活かし、バンコク都内及び郊外・地方そして近隣諸国を問わず、大学の広報を積極的に行い、東南アジアの留学生獲得に向けた活動を進めている。

グローバル 30 採択大学としての取組等

大阪大学は 2009 年度より、グローバル 30 に採択された 13 大学のひとつとして、「留学生 30 万人計画」の達成を目指し、英語による授業等の実施体制の構築など、留学生受入れ体制の整備を始めとする大学の国際化に向けた取組を行っている。

2014 年までの 5 年間とされている当該事業の推進として、特に、学部留学生の獲得に力を入れている。英語による学位の取得が可能な化学・生物学複合メジャーコース

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

と人間科学コースを設定しており、当該プログラムには、タイから2名の在籍がある。しかしながら、募集枠が若干名ということもあり、幅広い学生獲得には至っていないのが現状であるとのことである。

また、文部科学省の平成24年度「大学の世界展開力強化事業～ASEAN諸国等との大学間交流形成支援～」に、神戸大学から申請し採択された「ASEAN 諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成」において、大阪大学は共同大学として、タイのマヒドン大学、チェンマイ大学をカウンターパートとして、医学・保健学グローバルリーダーとして活躍できる医師、教育研究者、行動医療専門職者、医療産業人の養成を進める予定とのことであり、留学交流を含め、いっそうの学術交流の活発化が期待される。

交流協定締結校等との交流状況

大阪大学は現在、6大学1研究所（カセサート大学、キングモンクット工科大学トンブリ、チェンマイ大学、チュラロンコーン大学、マヒドン大学、タマサート大学及びタイ国保健省）との大学等間学術交流協定を締結しており、さらに、これらの大学等との研究科・学部間学術交流協定は7学部・研究科に及ぶ。留学生交流としては、平成24年度開始分として、言語文化学部タイ語学科の学生7名が協定校に6～10ヶ月短期留学し、協定校の学生19名が主として言語文化学部日本語学科に短期留学しており、ともに、JASSO の留学生交流支援制度（短期受入れ、短期派遣）などを利用しているとのことである。

さらに、平成24年度においては、JASSOの留学生交流支援制度（ショートビジット）を利用した30名程度のタイの学術協定大学への日本人学生の送り出しと、タイ学生の受入れを行った。

研究に関する支援

大阪大学はタイ国内に4つの研究施設を有しており、バンコク教育研究センターはその活動を必要に応じて支援している。そのうち、日・タイ感染症共同研究センター（2005 年設置、タイ国保健省医科学局・タイ国立予防衛生研究所内）、マヒドン大学－大阪大学感染症センター（2010 年設置、マヒドン大学熱帯病学部）、並びにデングワクチン（阪大微生物病研究会）寄付講座部門（2010年設置、マヒドン大学熱帯病学部）は、微生物病研究所が設置しており、日本人研究者9名が常駐して、感染症に関する研究の研究に従事している。また、マヒドン大学－大阪大学バイオサイエンス・バイオテクノロジー共同研究センター／大阪大学生物工学国際交流センター東南アジア共同研究拠点（2002年設置、マヒドン大学理学部内）は、生物工学国際交流センターが設置者であり、タイの熱帯生物資源利用に関する研究を行うとともに、アジアの研究者の活動拠点ともなっている。

在タイ邦人への社会活動

在タイ邦人に対する講演会の開催などの社会活動に関する支援として、例年、大阪大学バンコク公開講演会を行っている。2006年に第1回目の講演会が開催されて以降、

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

第7回目を迎えた今年度は、2012年10月13日（土）に、事務所近くのホテルを会場に、「感染症と私たちの健康」をテーマとして、大阪大学バンコク教育研究センター、大阪大学日本・タイ感染症共同研究センター及び大阪大学微生物病研究所の主催、在タイ日本国大使館及びタイ国日本人会の後援により開催された。大阪大学医学系研究科 磯 博康教授による講演「長寿の法則：悪習慣は良い習慣にトレード」では、美味しいが実はカロリーや塩分が高いタイ料理を食べ、便利なタクシーを常に利用してしまうようなバンコク在住日本人の食事バランスや運動不足といった指摘とともに、持続して実行できるような良い習慣を続けていくことの大切さをお話しいただいた。続いて（独）医薬基盤研究所 山西 弘一 理事長による講演「感染症の予防：進化するワクチン」では、ウィルスやワクチンといった分野になじみの薄い者にとっても、親しみやすく理解できるよう、様々なデータを使いつつ、感染症対策としてのワクチン開発の現状等について、わかりやすくお話しいただいた。また、今年度の新たな試みとして、講演の時間を少なくして質疑応答の時間を十分に取るとのことであったが、1時間弱の質疑応答時間において、磯教授、山西理事長及び日本・タイ感染症共同研究センター 武田 直和 センター長、在タイ日本国大使館 山下 弘明 医務官が、参加者からの相次ぐ質問にわかりやすく対応され、大変活発な質疑応答が交わされたことからも、在タイ邦人の講演内容への関心の高さが窺い知れた。このように、研究施設で得られた果実を広く社会に還元することも研究者や大学の大事な活動の一つであると関センター長は力説されている。

大阪大学同窓会の活動

大阪大学タイ同窓会（Osaka University Thai Alumni Club）は、タイ人元留学生（短期留学を含む）を中心として2005年3月に結成され、大阪大学バンコク教育研究センター内に連絡所を置き活動している。会長はイティチャイ・アルンスリサンチャイ氏（モンクット王ラカバン工科大学准教授）、事務局長はポーンチャイ・ヨンワッタナスントーン氏（PIOLAX (THAILAND) LTD.生産部長）。現在、約260名の元留学生と若干の日本人卒業生が登録している。活動としては、年1回程度の交流会を開催しており、2012年1月は熊谷元総長、宮原元総長、鷲田前総長の他、同大学教員も参加し、タイで起こった大洪水に関するセミナーを併せて開催した。

また、大阪外国語大学の卒業生で作られている咲耶会は、2007年大阪大学に統合されて以降、外国語学部の同窓会として継承されており、バンコク支部は会員約60名で活動している。会長は、長年務めた政岡勲氏から、2013年1月より福田和弘氏（国際交流基金バンコク日本文化センター所長）に引き継がれた。

今後の予定と課題

このように幅広く活動を行っている大阪大学であるが、昨今の予算の削減に伴い、センターの設置形態と新たな発展的活動方法の検討が行われており、一方では、ASEAN諸国の教育環境の統合を視野に入れた活動が急務であると考えられているという。ASEAN諸国の教育環境整理の一環として、タイにおいては大学入学時期を8～9月にするよう進めているとされている。折しも2012年12月下旬、大阪大学幹部役職員のJASSO・

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

JSPS事務所訪問があり、関センター長も交えて各事務所の活動内容や留学生受入れに向けた取組など広く意見交換を行った。JASSO 海外事務所としても、国との緊密な連携の下、他機関との一層の連携による留学生受入れの窓口機能強化が期待されているところであり、タイ事務所においてはJSPSとのオフィス共用化のみならず、他の独立行政法人等との連携を進めているところであるが、留学生受入れを推進していくうえで、日本の大学の現地事務所とのいっそうの連携強化は欠かせないものと考えられる。JASSO タイ事務所に最も近接する大学事務所の一つである大阪大学の今後の取組に注目しつつ、必要な事項についてはいっそうの相互協力を進めることができればと考えている。

※大阪大学バンコク教育研究センター　webサイト
http://www.osaka-u-bangkok.org/Japan/index.php

（注）文部科学省ホームページ「海外の大学との大学間交流協定、海外における拠点に関する調査結果」による。
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shitu/1287263.htm

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.